



114  
A2451



近頃經濟界ノ趨勢日ヲ逐テ非運ニ赴キ現政  
 存唯<sup>レ</sup>財政策タル金貨本位ノ制定公債賣出  
 等<sup>ノ</sup>施設モ何ノ感<sup>レ</sup>郷音ヲモ與ヘズ諸物價益々騰  
 貴シ金融漸次渋滞シテ金利愈々日印騰ノ傾  
 キアリ一般ノ事業界ハ萎靡不振ノ極ニ陥リ前  
 途果シテ如何ニ成行ヘキヤハ吾人ノ均シク憂及慮  
 措ク能ハサル處ナリ想フニ此變調ヲ来セル原因  
 或ハ戦後一時ノ浮熱冷却ノ反動モアルベシト重氏  
 抑モ復々政府ノ施設大ニ其宜シキヲ得ザルモノアルニ  
 其<sup>レ</sup>因<sup>ニ</sup>ズンバラス國家經濟上ノ擴張癡達ヲシ  
 テ國勢ノ進運ニ後ル<sup>レ</sup>ナカラシメントハ曾テ現  
 内閣ノ宣言セシ處ニシテ復々我輩ノ深ク屬





望セシ處ナリシニ由未其施設如何ト顧ルニ政  
事上ノ一ハ姑ラク云ハズ經濟界ノ實勢ハ日ニ振  
衰退ノ現象ヲ露シ古人ヲシテ益々危懼不安  
ノ念ヲ強カラシムルニ至レリ併シナガラ政府カ前期  
議會ニ於テ否間賛否ノ聲皆高々タルニ當リ故  
然トシテ貨幣法案ヲ提出シタルハ其意必ズヤ  
依テ以テ外資ヲ移入シ大ニ經濟上ノ抱負ヲ實  
行スルノ準備タルベキヲ信シタリキ然リ而シテ今日  
ニ至ルマデ政府ハ僅ニ四千參百萬円ノ公債賣却  
ノ契約ヲ訂結シ得タルノ外復タ何等ノ實迹ヲ  
モ見ケル能ハズ經濟界ノ形勢益々非ナル  
モ殆ント痛痒相関セサルモノ、如ク其方鍼果シ

テ積極的ナル故將テ消極的ナルヤ得テ其規知スルカ  
ラズシテ其業界ヲシテ五里霧中ニ彷徨セシム  
ルノ嘆ヲ免カレズ若シ消極的主義ヲ執リ經濟  
上ノ事ハ自然ノ成行ニ放任シ去ラントスル乎政府宜  
シク先ツ軍備ノ擴張其他各種ノ經營ヲ中止  
若シクハ延期シテ豫算ノ膨脹ヲ削減シ人民ノ負  
擔ヲ軽減スルノ策ニ出サル可ラス是レ當然ノ理數  
ナリ然レ氏前内閣以來ノ國是トシテ既ニセニ決定  
シ或ハ進行シツナル處ノ戰後經營ヲ縮小シ若クハ  
改廢スルハ到底云フベクシテ行フベカラサルノ空論  
ナリトセバ唯積極的鐵路ヲ守ツテ甚爲然處往  
スルノ一途アルノミ何ゾ逡巡躊躇スルヲ要セン哉



進ニテ軍備其他ノ完成ヲ期スルト共ニ大ニ殖  
産興業ヲ振作人民ノ納稅力ヲ培養シテ  
多々益々辦スルノ稅源ヲ求メサル可ラス及之  
政府ノ施設ハ年々歳々計豫算ノ増加シ  
テ殆トド稅源ノ涸竭ニ苦ミナガラ其徵稅ノ田  
畑トモ云フベキ實業界ノ荒廢衰亡ヲ冷眼視  
シ殆トト音心ニ介セザルモノ、如キハ是レ恰モ缺ヲ植  
ヘズシテ秋獲ノ豊穰ヲ待ツニ異ナラニヤ  
蓋シ實業社界ノ振否ハ幣ニ資本ノ需給  
如何ニ關スル一恰モ人身ノ血液ニ於ケルカ如ク實業  
界界ノ養液ハ充分ニシテ而モ低利ノ資金  
ヲ與フルニアラザレバ以テ活動スル一能ハサルナリ故ニ

資本ノ供給ヲ豊潤ニシ金利ノ低落ヲ講究スル  
ハ實業ニ現下ノ急要問題ナリ殊ニ日本銀行金  
融ノ操縦ハ且取モ中正ヲ保テ常ニ經濟界ノ趨向  
ヲ遠觀シ機宜ヲ制スルノ覺悟ナカル可ラス近頃  
官業方針更革、如キハ業務ノ一進歩トシテ  
ハ素ヨリ同情ヲ表スルヲ惜マザルベシト夙氏金利  
引上ノ如キ總裁タル岩崎氏所有株券賣買繼キ  
ノ如キ株式市場又起業家金融界ノ急激ナル心  
慌ヲ與ヘタルハ實ニ其時機ヲ失タルモノニシラ苟  
モ日本銀行總裁タルノ重責ヲ忘レ又個人トシテハ  
邦家一流ノ富豪トシテ經濟社界ニ對スル一點  
徳義ノ心ヲ有セス私利是レ計ルカ如キ觀ナキ能



如斯疑ハ形在アルハ岩崎氏ノ為メニ措クノミナラ  
ス要スルニ國家金融機關ノ樞軸ヲ舉テ經濟社  
界ニ大關係ヲ有スルノ人士ニ附スルハ洋ノ痛指ニ堪  
サル次第ナリ

古聞或ハ金融疏通事業幫助ノ必要ヲ説クモノ  
以テ徒ニ一部ノ起業者ヲ偏庇シ株券力所有者ヲ  
シテ投機者流ト唱エ其ハ小局部ニ傍倚ヲ子スル  
カ如キニ妄想ヲ懷クモノアルハ實ニ思ハケルノ甚キキ  
モノナリ且見ヨ現在既ニ發達大成シタル處ノ鐵  
道ニ紡績ニ或ハ製紙ニ其他一般ノ會社事業  
業ニモテ基礎ノ鞏固トナリ其株券ハ富直家  
ノ歡迎スル處トナリタルモノハ其初メ果シテ何人ノ手

實業同氏所有ハ株券ニ對シテ少許賣却シタルモノニシテ株券價值ノ低落ハ或モ亦

好マシ  
ルベシ  
既ニ氏

ニ依テ經營セラレタル乎試ニ現在ノ株式名簿ヲ發  
起人トシテ對照シテ來ラバ實ニ思ヒキバニ過クモノアラシ加  
之事業ノ發達ニ依テ國家ノ富度ヲ増進シタルハ  
勿論之ニ隨伴スル處ノ商工ニ若クハ多數ノ勞役  
者ニ至ルマテ其直接ト間接トノ間ハス一般社界ニ  
利益シタルハ切實ノ決ミテ鮮少ナラサルナリ而モ尙ホ  
一部ノ起業者者ニ幸スルニ過キスト云フヲ得ル歟是レ  
實ニ偏見ノ甚キモノニアラス哉  
由是觀之ハ邦家ノ隆運ヲ期セントスレバ主トシテ  
殖産興業ノ發達ヲ務メサル可ラス而モ軍備ト  
實業ハ恰モ車ノ兩輪ノ如ク實業發達シテ  
人民ノ納稅力増進サレバ軍備ノ完成ヲ必スベカ



ラズ軍備ナケレバ復タ實業ノ力ヲシテ大ニ海外ニ伸  
張スルヲ能ハズ然レバ即チ之レヲ振興スルノ策如何  
他ナシ唯資金供給ノ途ヲ疏通シ金利ヲ低廉ナラ  
シムルニ在リ蓋シ政府モ亦茲ニ見ル處アリテ汝既  
ニ吾界共通ノ貨幣制度ヲ設定シ依テ以テ公債  
ノ賣出シヲ決行シ大ニ外資輸入ヲ謀ラントスト虫  
氏未タ憂カニ豫期ノ目的ヲ達スルヲ難ク却テ金  
融緊縮事業沈衰ノ嘆聲耳ハ日ニ高マリ乘心ノ  
反對ノ結果ヲ現出シ柔ラサルハナシ是レ豈政府  
者ノ必ス意外ニ感スル處ナラカラシ哉  
然レモ怪ムヲ休メテ通貨ノ饒多必スシモ資本ノ  
豊潤ニアラサルカ如ク政府ノ公債賣却ハ民

間ノ資本トナリテ流出スルヲナキヲ以テ少シモ金融  
ノ緩和ヲ助クルヲナキノミナラズ適々以テ不生産  
的ノ支出ヲ増加スルノ結果中人以下ノ購買力ヲ  
増進シ愈々物價騰貴ノ勢ヲ財長シ互ニ原  
因結果トナリテ益々金融ノ繁栄ヲ感セシムルニ  
過サルナリ故ニ般商工社界ニ向ツテ充分ナル  
而モ低利ノ資本ヲ供給セント欲スレバ必ズ先ツ  
我國資本ノ分量ヲ増加セサル可ラス而シテ資本  
本増加ノ方法トシテハ普ク勤儉貯蓄ノ風ヲ養  
成シ下層ニ個々分散スル零碎ノ金額ヲ吸  
收スルハ其ノ手段タルニ相違ナシト虫氏一朝一タニ  
其効果ヲ望ムベカラス焦眉ノ急ニ應心セント



欲スレバ夫レ唯外債ノ募集ニ在ル乎須ラク  
低利ノ外債ヲ莫カ集ミテ高利ノ内國債ヲ  
償還シ政府歳出ノ端ヲ減スルト同時ニ事  
業資本ヲ充實スルノ策ヲ執ルベキナリ資本  
既ニ潤澤ナレバ事業ハ期セズシテ進歩發達  
シ人民復々負擔ノ重キヲ辭セス多々益々并  
スルコトヲ得政府財政亦綽々トシテ餘裕アリ  
易カトシテ戦後ノ經營ヲ完成スルヲ得ベシ  
是レ莫ニ一舉兩得ノ至計ニアラス哉  
要之ニ目下日本銀行代貸出ヲ貸出ニシ利息ヲ  
低廉ナラシメ而シテ政府ハ次期ノ議會ヲ持テ  
此外債募集案ヲ提出シ速カニ其決行ヲ期

セラレニテ執心勸告スルニ踟蹰セサルモノナリ徒ニ  
外債ノ名ヲ已心ニテ却テ高利ノ公債ヲ低廉貸出シ  
尙ホ且ツ經濟界ノ頹勢ヲ救済スル能ハサルガ  
如キ迂愚ノ政策ハ断々乎トシテ排斥セサル可  
ラザル也



